

人口ビジョン

総合戦略〈期間：平成27年度（2015年度）から平成31年度（2019年度）の5か年〉

現状分析

- ・総人口は、昭和30年合併時の30,294人をピークに減少傾向が続いている。
- ・平成に入り、減少のスピードは加速し、5年間で1,000人程度の減少となっている。
- ・死亡数が毎年300人前後で高止まりしているのに対し、出生数は減少傾向で、直近2年は100人を切っている。
- ・女性、特に若い女性の転出超過が顕著である。

人口の将来展望

▶H27.4 住基人口 16,324人
↓
▶対策を講じない場合の人口見通し
2040年(H52) 10,105人
(国立社会保障・人口問題研究所推計)

戦略の方向性

- ・「自然減」対策に取り組むつつ、まずは、「社会減」対策に重点的に取り組み、人口減少の抑制を図る。
- ・若者、女性の定着化に組み、バランスのとれた人口構造基盤の維持を図る。

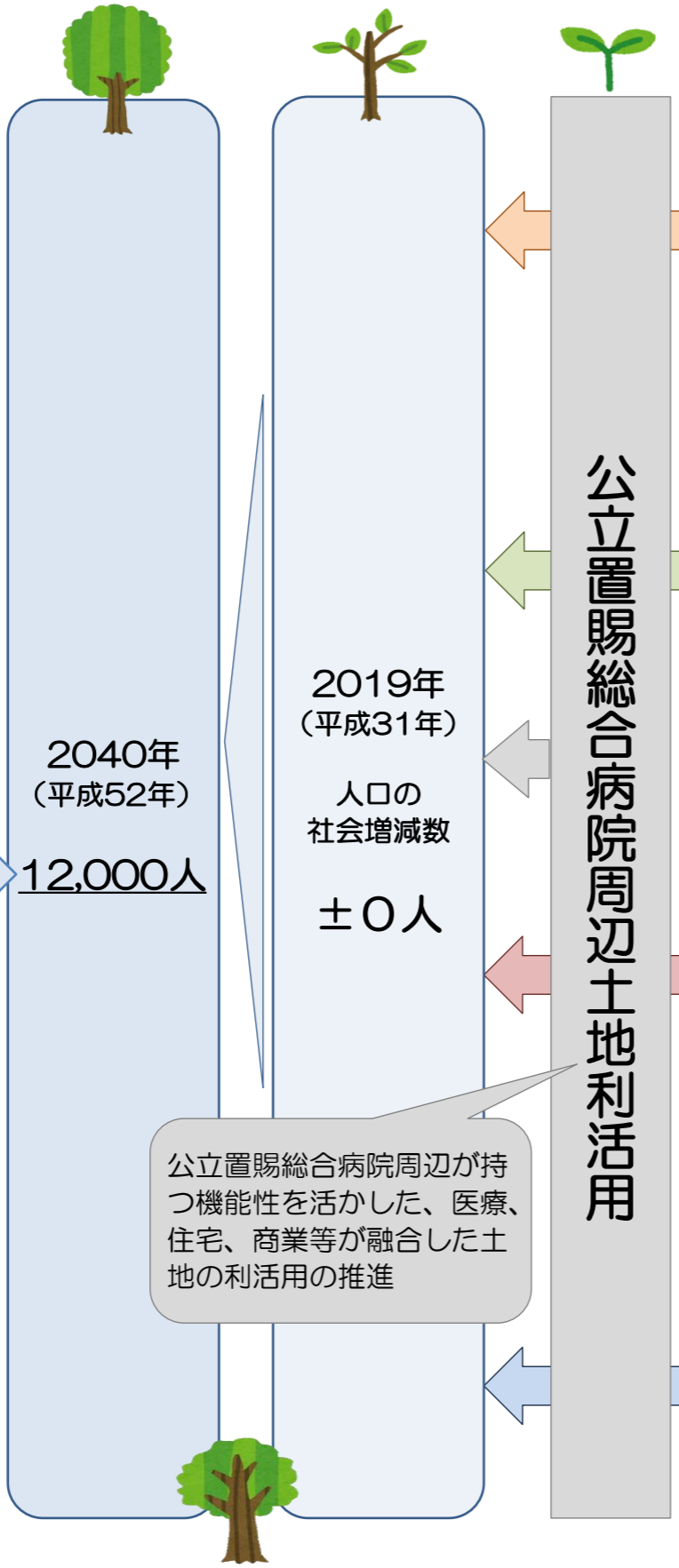
人口目標

戦略目標

リーディングプロジェクト

基本目標
数値目標

プロジェクト
具体的な施策



①地域経済の活性化
1.農業産出額(みなし)
60億円 ⇒ 67.5億円
(2014年) (2019年)

2.創業・起業件数
15件
(5か年累計)

②移住・定住促進
1.転出者数
400人 ⇒ 350人
(直近3か年平均) (2019年)

2.転入者数
266人 ⇒ 350人
(直近3か年平均) (2019年)

③女性が活躍するまち
1.女性人口の社会増減数
▲75人 ⇒ ±0人
(直近3か年平均) (2019年)

2.合計特殊出生率
1.46 ⇒ 1.66
(直近3か年平均) (2019年)

④生涯現役
1.初めて要介護認定を受けた人の平均年齢
82.6歳 ⇒ 84.0歳
(2014年) (2019年)

1.地域経済活性化プロジェクト

- 1.農業所得の向上
○攻めの農業の展開 ○次世代を担う人材の育成
- 2.雇用の創出
○創業・起業環境の充実 ○企業誘致 ○働く環境の充実
- 3.魅力ある観光
○町内観光の充実 ○観光の広域連携

2.移住・定住促進プロジェクト

- 1.暮らしやすいまち(転出抑制)
○住宅環境の充実 ○克雪
- 2.田園回帰の促進(転入促進)
○受け入れ態勢の充実 ○移住・回帰への誘導
- 3.出会い、交流の創造
○交流の拡大 ○結婚の促進

3.女性が活躍するまちづくりプロジェクト

- 1.男女(ひと)が認め合い育て合うまち
○女性目線でのまちづくり ○男女共同参画の推進
- 2.子育てしやすいまち
○安心して子どもを生むために ○子育て環境の充実

4.生涯現役プロジェクト

- 1.活力ある地域づくり
○地域づくりを担う人材の育成 ○地域で「稼ぐ」ために
○住み良い地域づくり(生活交通の確保)
○小・中学校及び置賜農業高校の魅力化
- 2.町民の健康増進
○健康寿命の延伸 ○高齢者福祉の充実
- 3.生きがいの創造
○高齢者の活躍促進 ○学びの創造、推進